

# 第10回福井県嶺南地域流域検討会の審議内容のご紹介

## ①第9回嶺南地域流域検討会における質問事項の回答 佐分利川水系

第9回検討会で委員の方々からいただいた質問事項（近年の水不足の要因、環境影響調査・評価、コスト縮減、超過洪水対策）について河川管理者より回答が行われました。

### ◎委員からの主な意見

<佐分利川全般について>

1. 水不足対策としては、やはり本川の上流が効果的であると思う。なぜ、下流の大津呂川なのか。佐分利川全体で捉えた合理的な説明が必要である。  
⇒【福井県】佐分利川流域における濁水被害は、人口が集中している下流域で顕著であると認識しています。そのため、下流域への補給効果のある現計画は妥当性が高いと考えています。  
【大飯町】佐分利川では地形的に大津呂川がダムに適しています。また、昭和28年の台風13号で大被害を受け、なかでも大津呂川の被害が甚大でした。
2. 他の県内河川とのバランスも考慮し、河川管理者として大津呂川に正常流量（特に維持流量）を確保する義務はあるのか。治水と利水流量分の容量だけ確保し建設費をさらに削減することも考えられるのではないか。  
⇒【事務局】正常流量は、河川管理者にとって非常に重要な項目であり、確保するべきと考えています。ダムにより、治水対策を図るとともに正常流量を確保します。
3. 大津呂川に維持流量を確保するならば、ただ流せばいいというのではなく、生態系の保全を考えた河川環境を創出しなければ、投資の意義が小さくなる。  
⇒【事務局】水量確保を有効利用するためにも、環境整備等を検討していきたいと考えています。
4. マリンワールドの意義について確認したい。  
⇒【大飯町】交流人口の増大等、大飯町の活性化を目指し、発電所誘致の集大成として、マリンワールド計画を進めています。

## ②佐分利川水系 河川整備基本方針(案)・河川整備計画(案)について

<基本方針について>

1. 「河川整備の基本となるべき事項」に確率規模が明記されていない。  
⇒【事務局】「〇〇年に1回の洪水」は確率処理での話であり、誤解を生む場合があります。また、全国的にも基本方針の本文には表記しない流れであり、今回は表記しておりません。
2. 佐分利川の生態系は水不足の影響でかなり貧相である。生き物の都合の視点がこれまで欠けてきたという反省の上に立って、これからの河川行政を進めて行くべきである。

<整備計画について>

3. 整備計画の目標は1/30になっている。整備水準を下げるのか。  
⇒【事務局】基本方針で1/50（佐分利川本川）をめざしますが、整備計画では住家等への氾濫の恐れのある区間について概ね1/30の目標としています。

### ③北川水系の現状と目指すべき方向性について

北川水系の概要、流域及び河川の特性、これらを踏まえた今後の方向性等について、河川管理者よりスライドを用いた説明が行われました。

- 流域及び河川の概要
- 目指すべき方向性

#### ◎委員からの主な意見

<北川水系の現状について>

1. 北川水系は洪水・濁水が頻繁であると認識している。雨量の減少等は若狭地方だけの傾向か。  
⇒【事務局】福井県全域で時間雨量は増え、年雨量は減っていて、濁水と集中豪雨を繰り返しやすい状態になっています。
2. 既往災害を見ると、大災害は減り濁水は頻度が高くなっている。となりの南川は水量が豊かだが、北川は流域に田畑が多いこともあって濁水被害が多いと思われる。

<河内川ダムについて>

3. 河内川ダムの進捗状況や事業費、市町の負担の程度を教えて欲しい。  
⇒【事務局】事業費は約 400 億で進捗率は約 35%です。市町の負担率は(※)8.9%となっています。(※10.35%の誤りです。)

<直轄区間等との調整について>

4. 北川のように管理（国、福井県、滋賀県）が異なる区間がある場合、総合して見ていかなければならないのではないか。また、議論すべき河川の範囲はどこまでか。ダムに関する検討等では直轄区間のデータが必要ではないか。  
⇒【事務局】直轄、および滋賀県と調整を行い、総合的に検討していきます。また、直轄の河川整備基本方針の策定を待たず、県管理区間の整備計画を策定することになりますが、関係機関と調整を行い、直轄管理区間との整合性をとりながら進めていきます。

<利水について>

6. 水需要予測についての資料を提示してほしい。

<河川環境について>

7. 環境に関しては、例えば、上下流の連続性確保のためにどこの堰を直していくかといった、具体的な話を取り上げ、流域全体として考えるべきである。
8. 河内川ダム建設による生態系への影響を検討し、最小限にする方法を考えるべきである。